

異変あれば大人に伝え、救急車呼んで



子どもに脳卒中について説明する(左から)尾原信行医師、藤原悟医師、ストローくん。神戸市中央区港島南町2の子保育園

園児から始める脳卒中講座

「急に顔がゆがんだり、しゃべれなくなった。りした大人がいたらすぐ救急車を呼んでね」。脳卒中の早期通報を子どもに呼びかけるため、神戸市立医療センター中央市民病院(同市中央区)脳神経内科の医師が、保育園で出前講座を

中央市民病院
保育園で医師

脳卒中は、脳出血

や脳梗塞、くも膜下出血といった急性脳血管障害の総称。発症から治療までにかかる期間の長短がその後の回復を大きく左右するため、素早く医療につながる事が重要

神戸

出前講座に取り組んでいるのは、いずれも脳神経内科の尾原信行医師(46)と藤原悟医師(37)。2020年から、新型コロナウイルス禍と重なったことから、病院職員の子を預か

ゆるキャラ「ストローくん」活用

予防教育、家族への浸透期待

院内の杉の子保育園でのみ続けてきた。

就学前の子どもを対象にする理由を、尾原医師は「幼いうちから予防教育ができる」と説明。さらに「子どもと2人きりの時に、親が発症することもある。119番通報につながる行動をとれるようになってほしい」と意義を強調する。

昨秋行われた出前講座には5、6歳児が参加した。医師2人とともにストローくんが登場すると、子どもたちの歓声が響いた。「血管って知ってる？」と藤原医師。「大人の血管は全部つなげると、地球2周分ぐらいの長さになるんだよ」と興味をひくように切り出した。

その後、血管の病気にあつた話に移った。藤原医師は「急に倒れる、しゃべれなくなる、片方の手

ストローくん 神戸市立医療センター中央市民病院公認の脳卒中啓発キャラクター。幅広い世代に脳卒中について知ってもらうため、2017年に誕生した。脳卒中を英語でストロークと呼ぶこと、血管の形状がストローに似ていることが名前の由来。20年のゆるキャラグランプリでは全国53位、県内1位。身長180.5cm。